

第一学院高で「夢授業」

つらさ楽しめる  
大人を目指そう

秋田市のエンジニア講話

秋田市広面の第一学院高等学校秋田キャンパス（桑原麻衣子キャンパス長）の「夢授業」がこのほど、同校で行われた。同市を拠点にメカニクス、エンジニアとしてモータースポーツ界で活躍する川村頼さん（同市八橋）の講話に、1、2年生35人が耳を傾

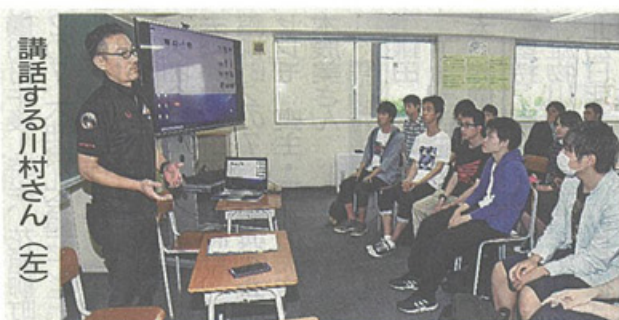
けた。

川村さんは、高校3年で中退し、大手自動車メーカーに就職。周りは博士号を持つ人や英語が堪能な人など優秀な人材ばかりだったが、「自分は頭が良くななくても熱意は人一倍ある」との思いで仕事に取り組んだという。

「辞めたいと思ったことはあるか」という生徒の質問に対しては「毎日辞めたいしつらいと思うけど、そう思っているうちはまだ頑張れる」と答え、「つらいことを楽しめる大人になつてほしい」とエールを送った。

将来は車に携わる仕事をしたいという2年の山本祐輔さん（16）は同市御所野は「熱意が大切だということが分かった」と話した。

同校は、生徒たちに多方面で活躍する人の価値観に触れ、視野を広げてもらうこと、年5、6回特別授業を行っている。（小松咲希）



講話する川村さん（左）